

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
<https://www.catholic-honjyo-church.org>

INDEX

- 「聖年四か月目」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「聖年四か月目」

主任司祭 パウロ 豊島 治

四月のご挨拶を申し上げます

四旬節です。祈りと節制の生活がすすめられています。今年の復活祭は四月二十日です。

教皇さまは祈りに感謝している旨のメッセージを伝え退院されました。本所教会の祈り場は終了しましたが、菊地大司教さまは祈りの継続を依頼されています。

日曜日のミサでは観光目的で訪日された方もミサに参加されています。ミサ後に予定をうかがうと、スカイツリーや浅草寺と思いきや、意外にも有名ラーメン店めぐりが挙げられます。先月初旬にいらした旅行者は東京大空襲・戦災資料センターに行くとおっしゃっていました。都営新宿線西大島駅や半蔵門線住吉駅から二十分のことですが、本所教会の前を走るバスに乗り「東京都現代美術館前」で下車してゆっくり歩くつもりだとおっしゃっていました。



今年は戦後八十年という年になります。イベント関係者から戦災で亡くなった方の芳名読み上げに、本所教会関係の方を加えたいとの申し出をいただきましたが、個人情報扱いについての観念の違いから実現には至りませんでした。

とはいえ、戦争の記憶を風化させないようにする取り組みも急務になっています。私は両親が戦争体験者なので、普段から「武運長久ミサ」があったこと、千人針、防空壕の話をしつかりききましたが語り部はもう限界です。

今年も台東区の公会堂では写真展示や証言を聞く機会が設定されました。墨田区の東京都慰霊堂では皇族、知事をはじめ百六十人が参列したと報道されました。このような報道をきくと、東京の爆撃は三月十日のみと勘違いする学習者がいるようですが、実際は爆撃方法の分岐点だったと教わりました。

空襲被害は東京区部が六十回。多摩や島嶼部を含めると百超になります。初回は一九四二年四月の品川と荒川、早稲田中学。四四年は渋谷区あたりに焼夷弾を用いた空襲が始まりました。四五年一月には銀座や有楽町が狙われます。

三月十日は色々情報がありますが、焼夷弾で焼き払う絨毯爆撃、別名「恐怖爆撃」です。春の強風を利用して、また炎上光景を目印にさらに爆撃機が油脂焼夷弾を投下するので、川に逃げる多数が衝突し命をおとします。風上に逃げた人には生存者もいたことです。都の慰霊堂には引き取り人がいないとの理由で八万柱が安置されています。その後、空襲は山の手、王子、蒲田、多摩へも広がり、八王子大空襲が八月です。



聖年行事に「主にささげる二十四時間」があります。今年は三月二十八日からでした。十年前の教皇メッセージに行うよう明記されていますが、その背景には世界の戦争の傷があります。その傷は今もなお深くなっています。戦争は国と国の政治で起くるのですから参政権を使えば戦争を止めることができるかもしれません。でも「やむを得ない武力行使」と説明されたらどのような立ち位置で私たちは返事をしたらいいのか。そんな迷いや無関心の渦に陥らないように復活祭にむけて整え、希望をおおぐ生き方に姿勢を正しましょう。